



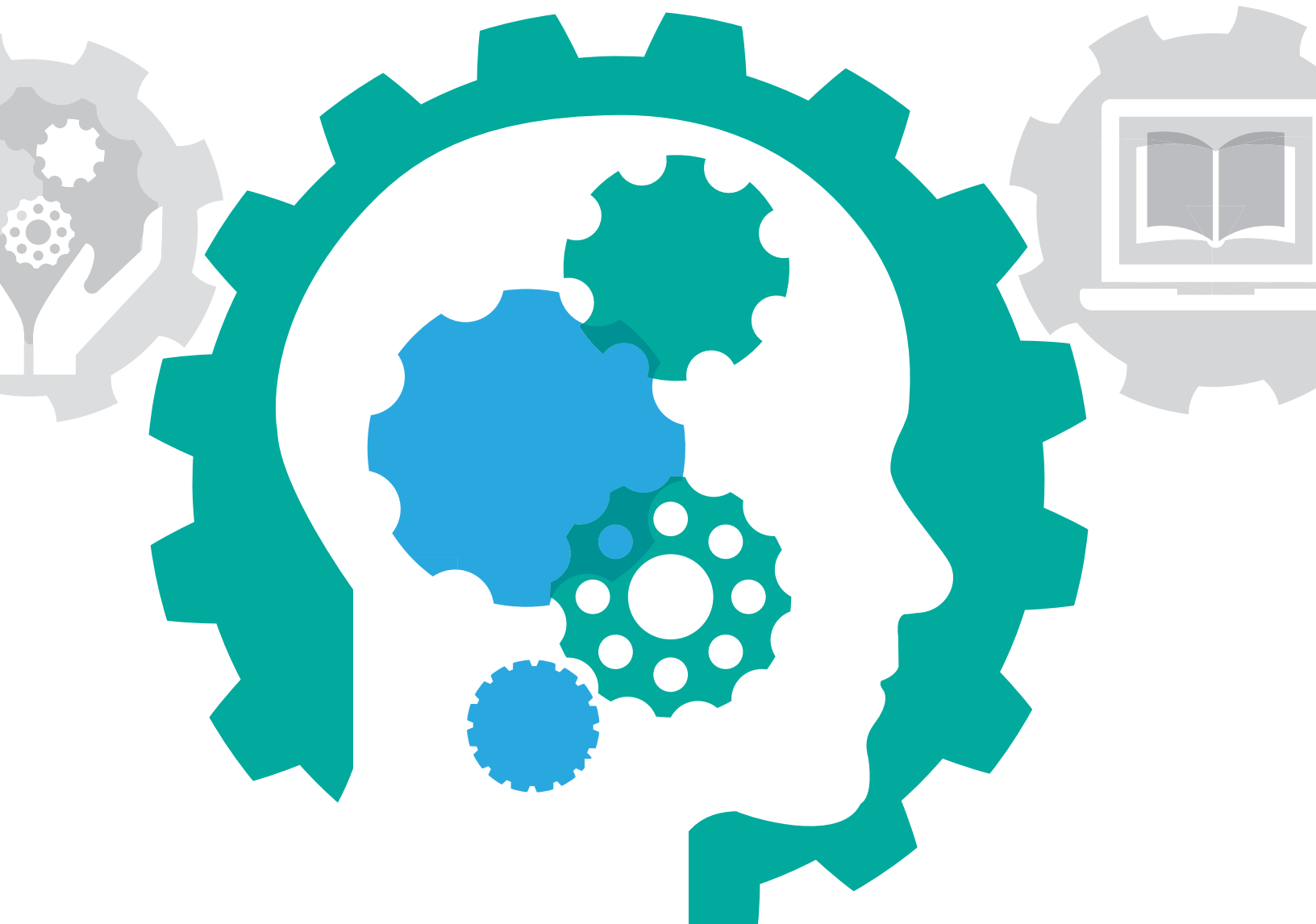
アメリカ・スクール・ライブラリアン協会
学習に変容を

学書準
国図基
全校館

AASL

学習者

基準フレームワーク



「AASL学習者基準フレームワーク」を紹介します



この「AASL学習者基準フレームワーク」のパンフレットは、児童・生徒やその他の学習者と使う基準フレームワークを提示します。これは、「AASL基準統合フレームワーク」を作り上げる三つの基準の内の一つで、『学習者、スクール・ライブラリアン、学校図書館の全国学校図書館基準』の特徴となっています。このAASL基準フレームワークは、学習者、スクール・ライブラリアン、図書館基準のつながりを示すことによって、教えることと学ぶことへの

総合的なアプローチを反映しています。基準フレームワークの各節は、他のフレームワークを反映するように作られています。それによって、基準を反映した活動が互いに強化し合うことを確実にすると同時に、学習者、スクール・ライブラリアン、学校図書館の能力や機能を高めます。このパンフレットは、教育者がAASLの特に学習者基準を参照できるように作られています。



このホイールチャートは、AASL基準フレームワークの構成要素の関係を示しています。

共有している 信念

よく準備のできた学習者、能力のある
スクール・ライブラリアン、ダイナミックな学校図書館の質
をどのように定義しますか？

この基準を改訂する過程で、アメリカ・スクール・ライブラリアン協会 (AASL) は、共有している信念について、従来のAASLの基準と公式声明を見直しました。これらの文書と、全国の1,300人以上のスクール・ライブラリアンと関係者から集まった意見によって、AASLはよく準備のできた学習者、能力のあるスクール・ライブラリアン、ダイナミックな学校図書館の質を明確に表現できるようになりました。以下の、共有している信念とその概要説明は専門職の中核と判断されました。

1. 学校図書館は、学習コミュニティにおいて独自で不可欠な存在です。

一人ひとりに合った、現実、もしくはバーチャルの学習の場として、学校図書館は学校と家庭をつなげる重要な存在です。その場所や機能におけるリーダーとして、スクール・ライブラリアンは、学校図書館の環境が学校コミュニティのすべてのメンバーに対して情報とテクノロジーへのアクセスを提供し、学習を現実世界のできごととつなぐことを確実にします。スクール・ライブラリアンは、よく整理された情報資源へのアクセスを提供することで、学術的な知識が深い理解につながっていくようにします。

2. 資格をもったスクール・ライブラリアンが先に立って、機能的な学校図書館を実現します。

能力のあるスクール・ライブラリアンは、組織的・個人的な成長を導きながら、十分な職員が配置され、情報資源が整った学校図書館において、探究的な学びの模範となり、それを促進し、向上させます。資格をもったスクール・ライブラリアンは、教授上のリーダー、プログラムの管理者、教育者、協働するパートナー、情報の専門家として、相互に関連した、分野横断的

な、多岐にわたる役割を果たすように教育され、認定されています。

3. 学習者は、大学進学、キャリア、人生への準備をする必要があります。

包摂と平等に献身する、能力のあるスクール・ライブラリアンは、それぞれの学習者にとって、どのような状況下で何が有効であるかを見極めるためにエビデンスを用います。コミュニティに関与する態度と革新的なリーダーシップをもって、スクール・ライブラリアンは、すべての学習者の学習の達成の可能性を高めます。このような学習の成功体験は、学習者たちに、学校内外で、途切れることのない進歩を通じて、探究し、発展学習をし、将来の職業生活を豊かにし、コミュニティに参加し続ける力を与えます。

4. 読むことは、個人的な能力と学力の中核をなしています。

学校図書館では、読む文化のもとで、学習者は適切な情報資源とデジタル学習の機会を利用します。スクール・ライブラリアンは、物語や個人の語りを用いて読むことへの動機づけとなるような活動を開始し高度化させて、学習者を巻き込んでゆきます。スクール・ライブラリアンは、最新のデジタル

および印刷資料とテクノロジーをキュレートすることによって、質の高い資料へのアクセスを提供します。そして、学習者、教育者、家族たちが生涯にわたって学び、読む人となるよう働きかけます。

5. 知的自由は学習者すべてがもつ権利です。

学習者は思想や情報へのアクセスの制限を他者に許すことなく、さまざまな意見に自由に耳を傾けたり、意見を述べたりします。スクール・ライブラリアンの責任は、学習者、教育者、そしてその他すべての学習コミュニティのメンバーにこうした姿勢を身につけさせることです。

6. 情報テクノロジーは適切に統合され、公平にアクセスできるものでなければなりません。

情報テクノロジーは学習と生活のほぼすべての側面に組み込まれているにもかかわらず、すべての学習者と教育者が、最新の適切なテクノロジーとインターネットに公平にアクセスできているわけではありません。機能的な学校図書館がデジタルデバイドや社会経済的格差を解消し、情報テクノロジーや情報スキルに影響を与えます。



AASL 学習者基準フレー

共有する基盤と主なコミットメント

学習領域と コンピテンシー	I. 探究	II. 包摂	III. 協働
A. 思考	<p>探究し、批判的に思考し、課題を特定して、そして課題を解決するための対策を練ることによって、新しい知識を形成します。</p> <p>学習者は、次のようにして、好奇心と積極的な態度を示します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 個人の関心またはカリキュラム上のトピックに関する問いを立てること。 新しい意味を見出すために前提となる、これまでの知識と、背景知識を思い出すこと。 	<p>学習コミュニティにおいて、包摂と多様性の尊重に対する理解とコミットメントを示します。</p> <p>学習者は、学習コミュニティに参加して、次のようにして、バランスのとれた見方に貢献します。</p> <ol style="list-style-type: none"> さまざまな学習者の貢献に対する気づきを表現すること。 情報資源や学習の成果物で表現された考え方や意見を把握する態度をとること。 グローバルな学習コミュニティで、文化的な関連性や位置づけに対する理解を示すこと。 	<p>他者とともに効果的に学習し、視野を広げて共通の目標に向かいます。</p> <p>学習者は、次のようにして、協働できる機会を見つけます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 理解を広め、深めたいという意欲を示すこと。 学習グループに参加することを通して、新たな理解を生みだすこと。 グループでのやりとりによって問題解決をしようとする事。
B. 創造	<p>学習者は、次を含むプロセスを経て、新しい知識に関わります。</p> <ol style="list-style-type: none"> エビデンスを用いて、問いについて調べる事。 足りない知識を得るために、計画を立て、実行すること。 学習を表現した成果物を生み出すこと。 	<p>学習者は、次のようにして、グローバルな学習コミュニティに対する認識を改めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> さまざまな見方を反映する学習者たちと交流すること。 学習活動のなかでさまざまな見方を評価すること。 学習活動のなかで多様な見方があることを表現すること。 	<p>学習者は、次のようにして、個人的、社会的、知的なネットワークに参加します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 多様なコミュニケーション・ツールや情報資源を使うこと。 学習者自身のそれまでの知識のうえに新たな知識を組み立てるために、他の学習者とのつながりを確立すること。
C. 共有	<p>学習者は、次を含むサイクルのなかで、他者と協調し、コミュニケーションをし、学習の成果物を共有します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 他者によって提案された内容の検討。 前向きなフィードバックの提供。 フィードバックを受けとめた行動。 興味・関心のある人びとと学習の成果物を共有すること。 	<p>学習者は、次のようにして、多様な考えに対する共感と寛容の態度を示します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 情報をもって会話や活発な話し合いに参加すること。 ある話題についての多様な観点が示された話し合いに貢献すること。 	<p>学習者は、次のようにして、問題解決のために、他者とともに効果的に活動します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 他者からのフィードバックを真摯に求め、それに応えること。 探究のプロセスで、多様な見方を取り入れること。
D. 成長	<p>学習者は、次のようにして、探究に基づくプロセスに参加します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 継続的な知識の探究。 持続的な探究への関与。 現実世界とのつながりを通して新しい理解を生成すること。 考えて、情報に基づいた決定をすること。 	<p>学習者は、次のようにして、グローバルな学習コミュニティで知識をつくりあげていくなかで、共感し、公平な態度を示します。</p> <ol style="list-style-type: none"> さまざまな学習者とのつながりを求めること。 学習活動のなかで他の見方に興味を示すこと。 グローバルな学習コミュニティで自身の位置づけをふりかえること。 	<p>学習者は、次のようにして、学習の場に、他者とともに積極的に参加します。</p> <ol style="list-style-type: none"> グループでの話し合いに積極的に貢献すること。 学習を社会に対する責任として認識すること。

ムワーク

<h2>IV. キュレート*</h2> <p>自身のニーズに合った情報資源を収集、整理、共有することで、自分自身と他者に対して意味をもたらします。</p> <p>*選択・整理・共有するという意味</p>	<h2>V. 探索</h2> <p>経験したり、省察したりすることで育まれる向上心をもって発見し、革新を遂げていきます。</p>	<h2>VI. 関与</h2> <p>実践のコミュニティやつながりあう世界に参加しながら、安全に、正当に、倫理的に、知識の成果物を自立して創造し、共有することを示します。</p>
<p>学習者は、次のようにして、情報ニーズに応じて行動します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報を集めるニーズを把握すること。 2. 可能性のある情報源を特定すること。 3. 利用する情報源を分析的に選択すること。 	<p>学習者は、次のようにして、自身の好奇心を育み、満たしていきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多様な形式で広く深く読み、さまざまな目的のために書いたり創造したりすること。 2. 仮定やありえる誤解についてよく考え、疑問をもつこと。 3. 個人の成長のために、探究のプロセスに取り組むこと。 	<p>学習者は、次のようにして、情報を集めたり活用したりする際、倫理的・法的ガイドラインに従います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報、テクノロジー、メディアを、責任をもって学習に用いること。 2. 情報、テクノロジー、メディアの倫理的な使い方を理解すること。 3. 正確性、妥当性、社会的・文化的文脈、ニーズに対する適合性について情報を評価すること。
<p>学習者は、次のようにして、課題にふさわしい情報を集めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. さまざまな情報源を探すこと。 2. 多様な視点を示している情報を収集すること。 3. 情報の妥当性や正確さを検証し、評価すること。 4. 優先順位、トピック、その他の体系的な方法によって情報を整理すること。 	<p>学習者は、次のようにして、新たな知識を構築します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 構想、実行、省察のサイクルを通して問題を解決すること。 2. 手直しをしたり、作ったりすることによって自主的な追求をし続けること。 	<p>学習者は、次のようにして、知識の創造において倫理的判断をするために、有用な情報を用い、理にかなった結論を出します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 他者の成果物を倫理的に活用したり取り入れたりすること。 2. 原著者を認識し、他者の知的生産物に対して敬意を示すこと。 3. 他者が内容の出典を適切に認識出来るように、個人で作る知識の成果物に必要な要素を盛り込むこと。
<p>学習者は、次のようにして、学習コミュニティのなかで、またそれを超えて、情報資源を交換します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 協働的に構築されたウェブサイトアクセスして評価すること。 2. 他人の著作物を倫理的に利用し、複製することによって、ウェブサイトの協働的な構築に参加すること。 3. 他者と連携して、協働的に構築されたウェブサイトの内容を比較・検証すること。 	<p>学習者は、次のようにして、学習コミュニティに参加します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個人の関心、またはカリキュラム上のトピックについて興味を示すこと。 2. 革新的な調査方法を協力して構築すること。 3. 課題や問題に対する革新的な解決策を協働的に見つけたこと。 	<p>学習者は、次のようにして、責任をもって、倫理的・合法的にグローバルコミュニティに新しい情報を共有します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 改変、再利用、リミックスに関する方針に沿って、情報資源を共有すること。 2. 伝えたい相手にふさわしい方法で、新しい知識を広めること。
<p>学習者は、次のようにして、さまざまな利用者のために情報を選択し、組織化します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キュレートされた情報資源の質、有用性、正確性について、継続的な分析や考察をすること。 2. 情報資源から得られた理解を、概念的な知識ネットワークに統合し、表現すること。 3. 他者が利用、解釈、確認できるように、キュレーションのプロセスを公開し伝達すること。 	<p>学習者は、次のようにして、経験と省察を通して成長します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. くり返し挑戦すること。 2. 開発し、伸ばし、広げることができる能力やスキルを意識すること。 3. 積極的で構築的な成長のためにフィードバックをオープン・マインドに受け入れること。 	<p>学習者は、次のようにして、情報に関わり、個人の学習を広げます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報とITの利用について、自分の方法をあみだすこと。 2. 倫理的な知識創造のプロセスをふりかえること。 3. 安全で責任のある、倫理的・合法的な情報行動をとるように、他者を促すこと。



基準はどのように活用されるか?

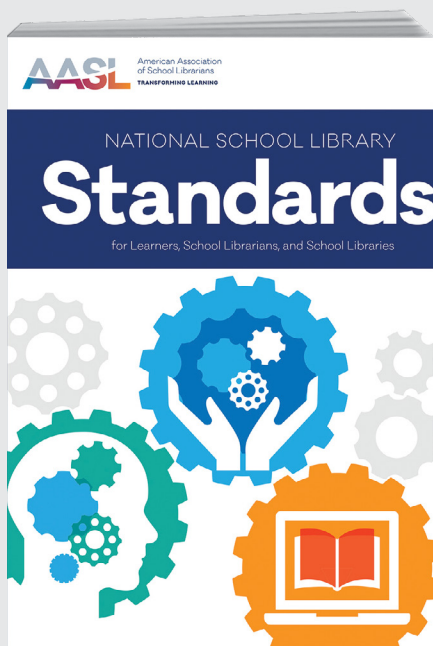
学習、専門職、プログラムについての他の基準と同様に、AASLの基準はカリキュラムではありません。むしろ、その学校での優先すべきことやニーズに合わせてカリキュラムを展開できるようガイドし、枠組みを提供するものです。

この基準の内容は、以下の二つの方法で用いられるように作られています。

1. それぞれの利用に合ったガイドとして。 学習者とスクール・ライブラリアンは、学習課題や専門職の活動に最も適しているところからはじめ、特定のコンピテンシーを伸ばす方法を決めるため、基準を使うことができます。

2. 進歩を示すものとして。 学習者とスクール・ライブラリアンは、まず、「思考」の学習領域の段階から取り組み、「思考」にかかわるコンピテンシーの習熟が達成されてから、「創造」、「共有」、そして「成長」に進みます。

教えることと学ぶことは、スクール・ライブラリアンの実践の中心にあります。学習のリーダーとして、スクール・ライブラリアンは、学習領域のコンピテンシーを実行し、模範を示して、伝えていきます。この基準を組織化する学習領域に基づくアプローチは、スクール・ライブラリアンが専門的な実践や成長を自分のものにして、同時に、学校図書館をその学校のニーズ、自身の強みや学習者の成長に常に合わせられるようになっています。



基準完全版

『学習者、スクール・ライブラリアン、学校図書館の全国学校図書館基準』は、完全版の「AASL基準統合フレームワーク」を掲載しており、基準の活用方法やアセスメントについて詳しく説明しています。この本の各節は、以下の内容を含んでいます。

- 第二部で紹介される、**六つの統合されたフレームワーク**（探究、包摂、協働、キュレート、探索、関与）は、コンピテンシーやよい実践の詳細な説明によって支えられています。これは、スクール・ライブラリアンが基準を効果的に導入するのに使える実践法を含んでいます。
- 第三部で紹介される、**達成を評価するための細やかなアプローチ**。コンピテンシーに基づく教育の目的は、一人ひとりに合った学習経験を通して学習者の成長を支えることです。自らが使うアセスメントや評価のツールを作る際に、学校や学区が作ったものをAASL基準に沿った形にするための事例が提示されています。そして、
- 第四部では、現実でありえる状況を描いた**事例**を検討しています。それを通して、学区の監督者と各学校のスクール・ライブラリアンが、AASL基準を行動にうつすことを思い描けます。

National School Library
Standards for Learners, School
Librarians, and School Libraries

ISBN: 978-0-8389-1579-0

2018 | softcover

320 pp | 7" x 10"

\$199

ALA Members: \$149

AASL Members: \$99

全国学校図書館基準のより詳しい情報や、その導入に役立つ最新の情報源にアクセスするには、standards.aasl.org を参照してください。

基準はどういう仕組みになっているか？

AASL全国学校図書館基準フレームワークは、六つの**共有する基盤**、つまり探究、包摂、協働、キュレート、探索、関与というこの基準のコアにある教育上のコンセプトによって支えられています。**主なコミットメント**にある一文は、共有する六つの基盤それぞれについての重要な見解を説明しています。

共有する基盤の**学習領域**、つまり思考（認知的）、創造（精神運動的）、共有（感情的）、成長（発達の）は、三つから五つの**コンピテンシー**によってさらに説明されています。それらのコンピテンシーは、学習者やスクール・ライブラリアンにとって不可欠な知識、スキル、姿勢を測ることができるように記述したものです。学校図書

館の場合は、コンピテンシーは**連携**として表現されています。

図1は、全国学校図書館基準で紹介されている「AASL基準統合フレームワーク」における、これらの要素の関係性を表したものです。共有する基盤、主なコミットメント、学習領域は、学習者、スクール・ライブラリアン、学校図書館の三つの基準のすべてを横断して現れています。三つの基準の共通した構造は、学習者の学びがどのようにスクール・ライブラリアンの実践と全体的な学校図書館の環境と関係しているのかについて明確にしています。共有する基盤のそれぞれは、三つの基準を横断して概観したときに、一番効果的に実行されます。

図1.『学習者、スクール・ライブラリアン、学校図書館の全国学校図書館基準』で紹介されている「AASL基準統合フレームワーク」にある要素の構造の概要。学習者基準は、三つの統合された基準のうちの一つです。統合フレームワークにおいて、学習者のコンピテンシーは、スクール・ライブラリアンのコンピテンシーと学校図書館の連携と一緒に並べられています。

共有する基盤		主なコミットメント		
共有する基盤 1. 探究 <small>探究し、批判的に思考し、問題を特定して、そして問題を解決するための方法を発見することによって、新しい知識を形成します。</small>		<small>学校図書館は、確実への主なコミットメントとそのコンピテンシーを促進します。</small>		
学習領域 A. 思考	学習者の学習領域とコンピテンシー 学習者は、次のようにして、好奇心と積極的な態度を示します。 1. 個人の関心またはカリキュラム上のピッキングに思いを注ぎます。 2. 新たな意味を見出すために、前提となる、これまでの知識と、背景の知識を思い出します。	学校図書館員の学習領域とコンピテンシー 学校図書館員は、次のようにして、情報を探求し、学習者が好奇心とインキュベーションを促進するよう指導します。 1. 学習のプロセスを個人の興味またはカリキュラム上のピッキングに思いを注ぎ、促進します。 2. 新たな意味を構築する前提条件として、学習者のこれまでの知識と背景知識を活性化すること。	学校図書館が関わる学習領域と連携 学校図書館は、次のようにして、好奇心とインキュベーションを奨励できるようにします。 1. 探求を学年と教科の枠に限定しません。 2. 他の教育者と協力しながら、体系的な教授法と情報リテラシーの過程を通して、カリキュラムへの探究プロセスを統合させること。	学習領域 A. 思考
B. 創造	学習者は、次を言わプロセスを経て、新しい知識に関わります。 1. コミュニティを思い、思いについて調べること。 2. 足りない知識を得るために、計画を立て、実行すること。 3. 学習を表現した成果物を生み出すこと。	学校図書館員は、次のようにして、新しい知識の創造を促進します。 1. 学習者に、思いに対して取り組む機会を提供すること。 2. 足りない知識を得るために、計画を立て、実行すること。 3. 学習を表現した成果物の制作を促すこと。	学校図書館は、次のようにして、新たな知識創造を可能にします。 1. 学校とコミュニティのすべての学習者のために、情報資源、情報、アイデア、デジタルリソースへのアクセスと利用の機会を提供すること。 2. 学習者と教師が、職業や情報リテラシーに必要にアクセスできるようにすること。	B. 創造
C. 共有	学習者は、次を言わプロセスを経て、自らと協働し、コミュニティを構築し、学習の成果物を共有します。 1. 他者によって提供された内容の理解。 2. 知識をデジタルリソースの提供。 3. フォイ ドバックスを受け入れた行動。 4. 興味・関心のある人々々と学習を共有すること。	学校図書館員は、次のようにして、学習者が探究のプロセスにおいて終結、集中力を保つよう働きかけます。 1. 探求に基づく調査のプロセスを評価するための手助けをする。 2. 学習者が他者と学習の成果物を共有し、学習のプロセスを促す機会を提供すること。	学校図書館は、次のようにして、学習者が探究のプロセスにおいて終結、集中力を保つよう働きかけます。 1. 魅力的であり、安全で、高効率で、学びが実現するよう、教員と協働を促進し、維持すること。 2. パブリック、ユニバーサルデザインに基づく環境によって、公平な物理的・知的なアクセスを可能にする。 3. 情報資源、包摂、サービスの改善のために、測定可能な学習者のアフィリタムとデータを活用すること。	C. 共有
D. 成長	学習者は、次のようにして、確実なプロセスに参加します。 1. 継続的な知識の探求。 2. 継続的な学習への関与。 3. 現実世界とのつながりを通して新しい理解を生み出すこと。 4. 考えて、積極的参加の決定をすること。	学校図書館は、次のようにして、学習者の探究に基づくプロセスを促進します。 1. 学習者と関係のあるプロセスにおいて先導すること。 2. 学習者それぞれの関心分野に焦点をあてた支援を提供すること。 3. 学習者が知識を探究し、新たな知識を創造し、そして、生涯にわたって学習のために、職業世界とのつながりを見出し続けること。	学校図書館は、次のようにして、学習者の探究に基づくプロセスを促進します。 1. すべての学習者の批判的思考と探究に向かう姿勢を学習環境を構築し、支援すること。 2. 学習と指導の成果を最大化するために、学校図書館、情報、テクノロジーの資源の果たす役割を強調すること。	D. 成長

基準のなかで特定のコンピテンシーまたは学校図書館の連携について参照するときは、数字と文字を使うことができます。学習者のためのコンピテンシーは、学習者基準I.B.3などと表すことができます。共有する基盤のI.探究、学習領域のB.創造、コンピテンシーの3番目を示します。

I.B.3. 学習者は、次を含むプロセスを経て、新しい知識に関わります。
3. 学習を表現した成果物を生み出すこと。

共有する基盤



AASL
アメリカ・スクール・ライブラリアン協会
学習に変容を

ala
editions
an imprint of the
American Library Association

翻訳

東山由依, 瀧上幸子, 手島善人,
スタルクキリアン, 西村あす実,
木下真希, 加藤結衣, 狩野瑞穂, 小泉徹,
布施芳一, 中山美由紀, 青柳啓子,
ハモンドエレン, 中村百合子

American Association of School Librarians
225 N Michigan Ave, Suite 1300 Chicago, IL 60601

© 2020 American Library Association

この文献の利用、複製、配布は私的、非営利、教育目的のみに限られます。

ISBN (bundle of 10): 978-0-8389-1654-4
2018 | softcover
8 pp | 8.5" x 11"
\$16.95 | AASL/ALA Members: \$15.26

この出版物は、standards.aasl.orgからダウンロードして入手できます。

印刷版は、ALAオンライン店舗www.alastore.ala.orgで、またはALAにお電話いただくことで購入できます。